

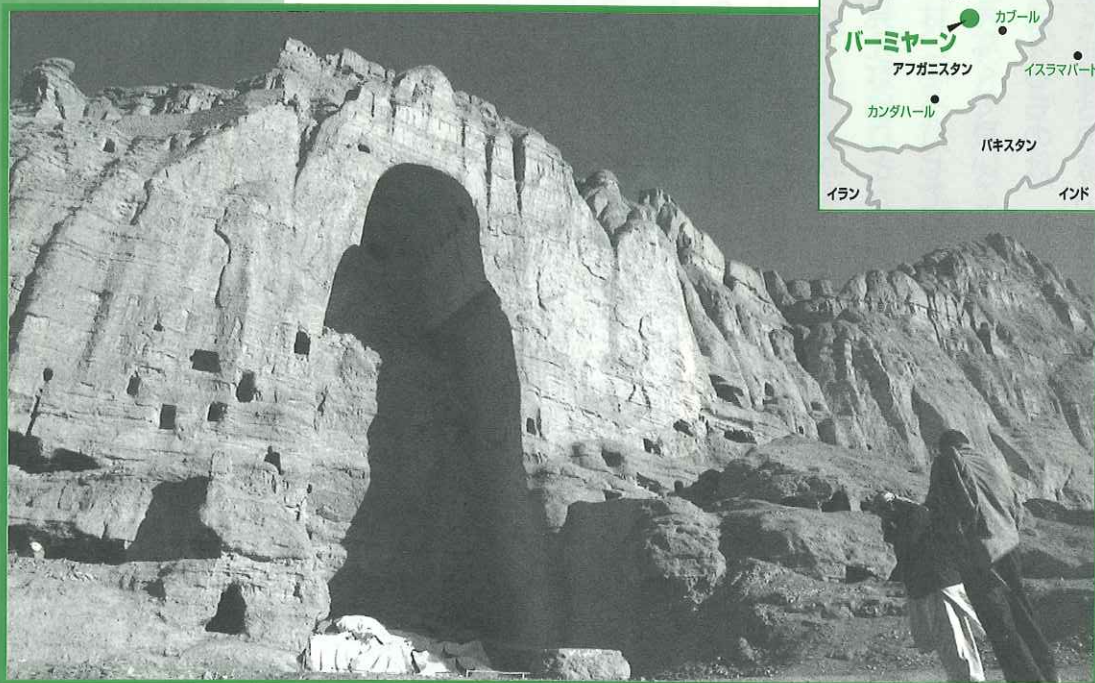
そほう

組 報

かながわ

No.18 2005.3.15

身近なお寺の情報誌



西大仏 高さ55メートルの世界最大の大仏立像。

撮影 山本敏晴

1965年12月8日生まれ。宮城県仙台市出身。医師・写真家。国際協力団体「宇宙船地球号」代表。
著書に、「世界で一番いのちの短い国」(白水社)。「彼女の夢みたアフガニスタン」(マガジンハウス)など多数。

バーミヤーン遺跡

バーミヤーン遺跡はアフガニスタンの首都カブールから北西に240キロに位置する遺跡群である。バーミヤーンの地は中央アジアの砂漠のオアシスとして古代から知られ、高度およそ2500メートルで、冬には積雪もあり気温日較差30度の地でもある。

ヒンドゥー・クシュ山脈を削り込んでつくられたバーミヤーン遺跡は仏教遺跡として東西大仏立像、坐仏像、仏堂をはじめ、壁画、天井画、修行僧たちの暮らした僧窟を構成している。

歴史的にも多民族国家であり、古代から東西文明交易路の要衝の地であり、仏教伝播西端の地として創建当時の豊かな文明交流の証を数多く残している貴重な文化遺産といえる。

2001年3月遺跡の大半がテロによって破壊されたが、2003年7月ユネスコの世界遺産に登録されることとなる。

浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第18号

煩惱にまなこさへられて

常念寺住職 古市道仁

私の祖父は、全く目が見えませんでした。祖父は、私が生まれる前に脳腫瘍を患いました。腫瘍が視神経のところにできたため、「いのちを失うか」、「視力を失うか」の選択を迫られたそうです。もしそのような状況におかれたときには、殆どの人が「視力を失う」という選択をすることでしょう。

私の祖父も「視力を失う」という選択をしました。煩惱具足の凡夫である以上、「一日でも長く生きていたい」と思うのは当然のことです。

ただし、全盲といいますが、普段の生活では、一人でお手洗いにも行けましたし、お風呂も一人で入っていました。食事も「これは何かな」とは尋ねましたけど、一人で食べていました。

そんな祖父を見て、周りの人は「お気の毒ですね」「かわいそう」といった言葉をかけてくださいました。しかし私には「お気の毒」「かわいそう」という言葉は、「私は目が見えるけど、あなたは見えない」といった、なにか「ひとごと」のように聞こえたものです。

果たして目が見えないことが、本当に「気の毒」「かわいそう」なことなのでしょう。少なくとも私の祖父本人は、そう感じていなかったようです。よく私に「目が見えることは良いことばかりではない。目が見えなくて良いこともあるんだぞ」と聞かされていました。

私たちの目に見えるものは、全てが真実とは限りません。むしろ私たちは、自分にとって都合の良いものだけを見て、都合の悪いものは見ないようにしているのではないのでしょうか。お寺の住職をし

ていると、様々な年齢の方の「死」というご縁に遇わせていただきます。蓮如上人のご文章の中にも「老少不定（年老いたから先、若いから後と決まっている訳ではない）」とありますように、親よりさきに、子どもさんが亡くなるというご縁に遇わせていただくこともあります。身内であれば別ですが、他人であれば「かわいそう」「お気の毒」という感情を抱くのではないのでしょうか。それこそまさに「ひとごと」ではないのでしょうか。

この私にも一歳と四歳の子供がいます。しかし子どもを先に見送らなければならないご縁もあります。子どもが先立つということは、自分にとって都合の悪いことです。都合が悪いから「見ないようにしよう」「考えないようにしよう」としているのではないのでしょうか。

煩惱にまなこさへられて

摂取の光明みざれども

大悲ものうきことなくて

つねにわが身をてらすなり

（親鸞聖人『高僧和讃』）

法話

私たちには、見えていると思っていても見えていないことがいっぱいあります。自分の基準で他人を不幸と決めつける「ひとごと」。そればかりではありません。その確かと思っている基準すら曖昧で偏見に満ちたものであること。そのように自分の都合でしかものごとを見ることのできないことを、親鸞聖人は「煩惱にまなこさへられ」た姿と示されています。



宗派の動き

本山(西本願寺)にて、「御正忌報恩講」初日(一月九日)の速夜法要後、本願寺総御堂において「親鸞聖人七五〇回大遠忌」についてのご消息「発布式」が行なわれ、大谷光真「門主」が読みあげられました。
親鸞聖人の大遠忌法要は五十年「こと」に営まれる法要です。宗門では法要の意義を深めるために、基本長期計画の策定を進めています。
(「ご消息」とは、手紙のことで、宗門では、親鸞聖人や歴代宗主および「門主」が僧侶、門信徒へ宛てた書状のこと)

■親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七五〇回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を平成二十三年四月よりお勤めすることになりました。このご縁に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えとともに、浄土真宗のみ教を深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、九歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二十九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となりました。三十五歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九十歳を二期として往生の素懷を遂げられました。

親鸞聖人によつて開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿彌陀如来の本願力によつて、往生成仏し、この世に還つて迷えるものを救うためにはたらくという教です。南無阿彌陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人びとの利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿彌陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合つて、往生浄土の道を歩むことでもあります。如来の智慧によつて、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思います。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合つてこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七〇〇回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に応える宗門を築きたいと思ひます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教を伝える必要があります。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的な協賛ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年 一月九日
二〇〇五年

龍谷門主 釋 即 如

神奈川組の動き

■第七期連続研修会スタート

連研(連続研修会)は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教を体系的に学んでいただくことを目的に開催されています。第七期は二〇〇三年十月よりスタートし、偶数月の第三土曜日に開催されています。二〇〇五年二月の研修で九回が修了し、同年八月をもって全十二回が修了する予定になっています。

■神奈川組仏教婦人会「めぐみ会」

「めぐみ会」は、組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会の交流と親睦をはかっています。宗門関係の特別養護老人ホーム「あそか園」への清

掃奉仕を行ったり、ダーナ(布施)活動として募金を行い、宗派を通して社会福祉に役立つ活動をしています。

■第三十三回

南ブロックお寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県より小学三年生・中学三年生の子供たちが集まり開催されています。今年は七月二十七日(水)・二十九日(金)、山梨組の担当で山梨県立愛宕山少年自然の家にて開校されます。参加ご希望の方は所属寺までお問い合わせ下さい。

■神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まった会員が活発に活動中。宝光寺の藤田恭爾師を講師に「歎異抄に学ぶ」というテーマで年四回程の研修会を開催しています。

二〇〇四年十一月には、多摩地域の寺院の行脚を行い、五十名余りの参加者により、調

布市・八王子市・あきる野市のお寺などを参拝しました。

■相模原布教所が神奈川組に編入

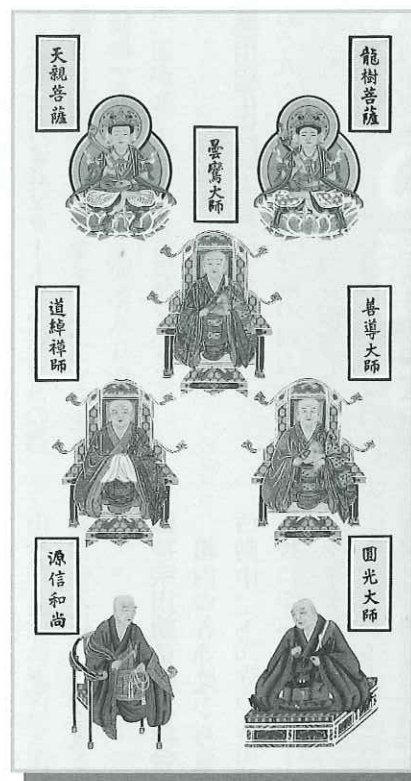
都市開教布教所「相模原布教所(相模原市当麻八六三―三〇)」が二〇〇五年二月より神奈川組に編入されました。専従員は北條不可思師。これからも神奈川組の一員としてよりしく願います。

【二〇〇四年度慶弔】

▼往生

五月 善龍寺坊守
齊藤 珠江様 四十九歳
六月 最乗寺坊守
日野智恵子様 八十五歳

七高僧



お寺の本堂には、中央にご本尊の阿彌陀如来が安置されています。両脇にもいろいろな掛け軸が奉懸されていますが、そのうちの一つに、七高僧の掛け軸があります。

親鸞聖人は、釈尊以来、浄土念仏の教えを正しく受け継ぎ、深められた先哲のうち、とくにインドの龍樹菩薩、天親菩薩、中国の曇鸞大師、道綽大師、善導大師、日本の源信和尚、源空（法然）上人の計七人を、「七高僧」として讃仰されました。

日常勤行で馴染みのある「正信念仏偈」にも、七高僧のお徳が讃えられています。

龍樹菩薩（五〇―五〇頃）

南インドに生まれる。有見（ものごと）を常住不変であると執着する見解と、無見（虚無のものだと執着する見解）の両方とも謬見だと否定して、因縁生によるものの見方を説き、空の思想を確立し大乘仏教の基礎を築いた。さらに、難行道とされる仏教において信心をたてたとした誰にでもできる実践行、すなわち易行の道があることを説いた。阿彌陀仏の本願を信ずることによって、必ず仏となる身と定まるので、ただ常に如来のみ名を称え如来大悲の「恩を報ずるべきだ」と、念仏をすすめた。

天親菩薩（四―五世紀頃）

北インドに生まれる。はじめは部派仏教に学び「俱舍論」を著し、後に大乘仏教に帰依し唯識学派の基礎を築いた。「仏説無量寿経」を注釈した「浄土論」を著し、阿彌陀如来の本願を、一心に受けとめることによって迷いからさとへと超えることができると説いた。浄土は、如来の願心により展開した莊嚴の世界であると説き示すことにより、誰もが浄土に心をひかれ、ともに往生することを願うようにすすめた。また、浄土に往生すると真如法性の身として悟りをひらき、さらにまた迷いのこの世に還つて衆生救済のたらしきをすることになると説いた。

曇鸞大師（四七六―五四二）

中国の雁門（現在の山西省代県）の生まれる。曇鸞大師は一時期体調を崩し、不老長寿を説く仙術の書に救いを求めたことがあったが、インド僧・菩提流支三蔵との出会いによって、あさはかな思いを改悟し、仙術の書を焼き捨てて浄土教に帰依することになった。

曇鸞大師は、天親菩薩の「浄土論」についての解説書である「往生論註」を著した。本願力を「他力」として捉え直し、この他力の信心こそが凡夫が往生するための因（たね）であり、浄土へ生まれゆく往相も、また利他教化のために浄土から迷いの世界にかえり来る還相も、他力回向によるものとした。

道綽大師（五六二―六四五）

井州文水（現在の山西省文水）に生まれる。道綽大師在世のころになると、末法の時代に入ったという危機意識が高まった。四八歳のとき、玄中寺で曇鸞大師の碑文を見て感動し、それまで属していた涅槃宗を離れ、浄土教に帰依した。「観経」の講義を二百回、念仏を称えること七万遍を日課とする生活を送ったという。

著書「安楽集」で、仏教を聖道門と浄土門とに大別し、両者ともすぐれた教えであるが、五濁惡世の末法の現在に生きる凡夫にとって仏となる道は、浄土の一門においてのみ可能であるとし、また一生涯惡をなすような者でも如来の本願に遇うことによって救われると説いた。

善導大師（六二三―六八二）

中国の臨（現在の山東省）、あるいは泗州（現在の江蘇省）の生れともいわれる。善導大師は道綽大師八〇歳のときの弟子である。

当時、中国の学者の間では、「観無量寿経」の解釈について、定善・禪定心をもつて仏道を修することや、散善・日常生活を送る散乱した心のままで仏道を修すること（を）を實踐する聖者や自

力行者ための教えであると見るのが一般的であった。これに対し善導は、定善・散善という自力修行のかなわぬ逆惡の凡夫までもが、称名念仏によって救われることこそ、この経の真意であるとした。この功績を親鸞聖人は「善導ひとり仏の正意を明かせり」と正信偈に讃えている。

善導大師は、南無阿彌陀仏の称名こそが、浄土往生のための正定業であるとし、その理由を「彼の仏願に順ずるが故に」と、称える側に功績があるのではなく、あくまでも如来の本願力に基づく点にあることを明確にした。

源信和尚（九四二―一〇二七）

大和（現在の奈良県）当麻の生れ。恵心僧都ともいわれる。比叡山に入り良源のもとで学び、早くからその学才を認められた。主著「往生要集」は、約二六〇の仏教典籍より往生浄土に関する要文を選んで書き上げたもので、全一〇章からなる。この書は、当時、中国の天台山からも高く評価され、「日本小釈迦源信如来」の称号が源信に対して送られて来たほどであった。

『往生要集』で、「大悲憐きことなくして常にわが身をてらしたまへり」と、阿彌陀仏は、仏智を疑う者に対しても、

すこしも嫌な気持ちを抱くことなく、その疑惑を晴らそうと智慧の光を照らし続けているのだと、広大な仏徳を讃仰している。

源空（法然）上人（一二一三―一二六二）

美作国久米（現在の岡山県久米南町里方）に生まれる。九歳の時、父の不慮の死をきっかけに仏門に入る。一五歳頃に比叡山に入った。膨大な一切経（仏教典籍のすべて）を五回も読み返したといわれる。四三歳のとき、善導大師「観経疏」の「一心に弥陀の名号を専念して、行住坐臥に、時節の久近を問わず、念念に捨てざれば、これを正定の業と名づく。彼の仏願に順ずるが故に」の一文に出会い、はたと目覚めたというのである。叡山を下りて東山吉水に移り住み、念仏の教えを弘めた。

念仏の意義について、如来のお心に對して「疑」を抱いていることが迷いの世界に縛られる原因であり、如来より賜る「信」こそが浄土往生を可能にするものだとい説いた。

親鸞聖人は、二九歳のとき法然上人に出会い阿彌陀仏の本願に帰依した。法然上人を「よき人」と仰ぎつつ、流罪になるまでの五年間、門弟として直接に教えを受けた。

東西本願寺



本願寺第十一代門主顯如上人の時代、石山本願寺（現在、大阪城）と、本願寺教団の滅亡を目指す織田信長との間に、十一年間に及ぶ戦争がございました。顯如上人は織田信長との和睦に応じるのですが、長男の教如上人は、徹底抗戦を主張して、石山本願寺に残りました。しかし、主力を失った教如上人は、信長との戦いにまもなく敗れ、石山本願寺を逃れます。顯如上人は織田信長の手前、教如上人を許すわけにはいきませんでした。

豊臣秀吉の時代になり、本願寺は現在の西本願寺の地を秀吉から与えられ、百二十年ぶりに念願の京都に戻る事が出来ました。まもなく顯如上人が亡くなり、三男の准如上人が本願寺の第十二代を継ぐのですが、徳川家康の時代になると家康は、巨大な本願寺勢力を半減しようと図り、顯如上人を立てて、現在の東本願寺を建立させて、本願寺を二分させました。このように、本願寺は教義によって分かれたのではなく、時の権力者によって政治的理由によって分かれさせられたのであります。

法燈明

一

親鸞聖人は『教行信証』の中で、善導大師の「外向けに賢者や善人らしく励む姿を現していながら、心のうちには偽りを抱いてはならない」（外に賢善精進の相を現じ、内に虚仮を懐くことを得ざれ）とこのことを、「外向けに賢者や善人らしく励む姿を現してはならない。心のうちは偽りばかりだからだ」（外に賢善精進の相を現ずることを得ざれ、内に虚仮を懐けば

なり）と読み替えて引用をしております。

読み間違いではありません。原文の意味を充分咀嚼した上で、独自の読み替えをしておられるのです。人間の心理への深い洞察を経て生れてきた読み替えです。

そこには「身の程を知れよ」「自分が思うほど人間は立派じゃないんだよ」との人生への警鐘がこめられています。それは、聖人のご自身への厳しい問の積み重ねの中で生れてきた思いであります。汲めども

つきぬ煩悩を抱えた身であるのに、もかわらず善人ぶったところで、それは嘘偽りで雑多な毒の混ざった行為としか言えないのだという思いであります。

仏教が、寛容の宗教だと言われる背景には、自分自身の心の内面への厳しい眼差しがあるのです。自身自身の限界を知るものには、他を裁くことはできません。

「善人ばかりいる家庭には争いが絶えない」との標語がありました。その通りだと思います。

善人ばかりいる家庭には争いが絶えない

一

正義を振り回して相手を裁く時、対話が成立しなくなります。現代は、そこら中に正義が蔓延しています。不毛な争いばかりが行われているような気がしてなりません。

私自身を振り返ってみても、正義の立場にたつて他を裁く考え方に、いつの間にか染まっていたという反省させられることが往々にしてあります。

平和のために兵器を持ち、人殺しも戦争も行爲者にとつて正義になるのです。自分たちの満足のために、他の人々を責めることを厭わない人が増えてきています。すきを見せたら負け。護るために鎧をつけ、攻撃こそ防衛との感覚は、いまの社

二

会を象徴しているように思います。なぜならば、それは自分都合の得手勝手な解釈から生れたところの善や正義だからです。そのような善や正義が至るところで主張されたら、争いのたえない世の中になるのは当然のことと言えます。

そして、振り込め詐欺の横行。詐欺に簡単に手を染める風潮の、その根は、同じに思えてなりません。

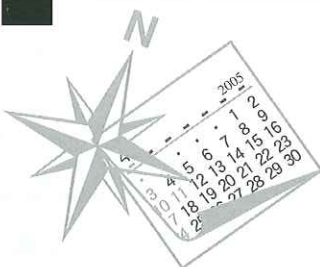
少々悲観的な物言いになってしまいましたが、そんな時だからこそ、本当の仏教が生きてくるのではないかと思います。鎌倉仏教が栄えた当時も、天変地異が多く、源平の

戦いは肉親同士の殺戮となり、人の心がすさんだ時でありました。

律令制での仏教の位置づけは、国家の安定を祈る鎮護国家の装置としての役割でした。しかし、当時の人々の心をとらえたのは、鎮護国家のための仏教ではなく、一人一人の心のありようを問う仏教だったのです。

仏教は、もともと他を裁いたり鎮めたりする教えではありません。仏教のみ教えの中に我が身を置くということは、自分自身の心を、そして行為を真実に照らして問うていくということになります。そこでは、身勝手だった我が身が転ぜられていくという、回心があります。仏教の持つ独特な寛容性は、そのような心の集合から生れてきたのです。

「方角・日の善し悪し」



2005年を迎え、新しくなったカレンダーを見てみると、今年もありませんか？「大空、仏滅」などの日の吉凶を表す文字が。これは「六曜」と呼ばれるもので、物事を行なったりするうえで私たちの日常に少なからず影響を与えるものとなっています。大空であれば良き日ということで、多く結婚式などがとり行われたりしますし、仏滅とあれば悪しき日としてそれらは避けられてしまいます。また、友引は葬儀をしない（真宗のお寺ではとり行っています）など、「六曜」が仏事に影響することもしばしばあります。しかし、調べてみるとこの「六曜」という暦法による吉凶の制定は根拠があいまいです。仏教とは「因果の道理」を根本とした教えです。因果とは物事が起こる原因と結果のことです。「六曜」のいうところの日の吉凶には、仏教の説く「因果の道理」はありません。墓相、家相などの方相、方角の吉凶についても同様のことが言えます。仏の教えを聞くときに、曖昧なものにとらわれる曖昧な自分に気づかされることであります。

浄土真宗の教章（浄土真宗を要約して解説したもの）の中には宗風として「深く因果の道理をわきまえて、現世祈禱や、まじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない。」という一文があるように曖昧なものにとらわれないのが浄土真宗のみ教えです。

私たちは、方角・日の良し悪しのような曖昧なものにまどわされることなく、いつも手を合わせお念仏いただきながら、仏のみ教えと共に真宗人の生活スタイルである「とらわれない」日々を送りたいものです。

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www.posteios.com>

ビハーク電話相談
— 老いの悩み、病の苦しみに —
相談日▶ 毎週月・金／午後2時～5時
浄土真宗東京ビハーク（築地本願寺内）
TEL.03(5565)3418



テレホン法話 電話で仏さまのみ教えを！

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0294
- 長念寺テレホン法話
TEL 044(911)8282

ちよつと一息

心中をあらためんとまでは思ふ人あれども、
信をとらんと思ふ人はなきなりと仰せられ候ふ。

れんによしうにんごいちだい きき がき
「蓮如上人御一代記聞書」(175条)

現代においては、自らの心のあり方を検証し、改革する事によってより良い人生（自分の思いどおり）を歩むことを進める情報が数多いことです。しかし、もっと大切なことは、阿弥陀さまの願い（あなたの命を浄土へ導きます）を聞き、私が今ここに生かされ生きている命の意味を問うことです。蓮如上人の時代も現代も人間の本质は変わることがありません。うわべだけの心の改革ではなく、真実の教えに私の心を問うていきましょう。

… 身近な仏教語 …

「意地」

昨今、日本語を見直す書籍や意見が、多く見られる様になりました。最近の言葉が、随分変わってきている事の表れなのかもしれません。しかし、その過程で「役不足」や「出世」など、今の使い方が元々の意味と違っているものも知られてきました。「意地」もまた、その一つと言えます。

「意地」は、元々仏教の用語です。「意」は意識の事で、それに相応して欲が働く所を「地」と言います。つまり、欲が働いている所と言う意味でしたが、現在ではそれが転じて、「思っている事」と言うような意味で使われているようです。

それでは、元々の意味を、ここでは例として「意地汚い」に当てはめてみましょう。「意地」は、「欲」が働いている所を指していますから、欲が働いている所だから汚いと言う意味となります。また、場合によっては欲そのものが汚いと言う意味にもなります。実は「意地が汚い」と「意地は汚い」では、微妙な印象が異なり解釈が分かれるのです。

言い方一つで印象が変わる事は、言葉の世界では良くあります。それは、その言葉が色々な場面で使われてきた事を表しているのです。「意地」も、元々は仏教の用語でしたが、色々な人に使われてきた中で、意味も転じてきました。ですから、言葉は意味を表すと同時に、その言葉を使ってきた人々を解釈する、いわば窓とも言えます。

「意地汚い」の他に、「意地っ張り」「意地悪い」などと、現在では余り良い意味で使われる事の無い言葉、「意地」ではありますが、それは欲と言う人間の持つ本質を省みる言葉として色々な人に使われてきた結果かもしれません。





『アジャセ王の救い 王舎城悲劇の深層』鍋島直樹 著(龍谷大学教授)
¥1,700(税込) 2004年5月 方丈堂出版

怒りのままに父を殺したアジャセ(阿闍世)王が、苦しみを経てその罪から救われていく観無量寿経の「アジャセ王の物語」。この物語のなかには、幼児虐待・尊属殺人・教唆罪・非行・エゴイズム・罪責感・占い・宿命論など、いつの時代にもみられる人間の現実が描かれている。アジャセ王の悲しみと真実を、そして傷ついた人間が生きる道を、探ろうとする。
また筆者は、親鸞聖人がこの物語をどのように受け止めたかを明らかにしようと試みている。



『宗教の教科書 12週』菅原伸郎 著(大阪経済大学・拓殖大学・立正大学講師)
¥1,890(税込) 2005年1月 トランスビュー

朝日新聞に「こころの真」を創ったもと学芸・宗教記者が、豊富な取材体験を生かし、いま宗教をどのように考えればよいのかを、具体的に分かりやすく説く。
「入門する」「祈る」「迷う」「救われる」「気づく」「変る」など12回の名講義で宗教のエッセンスがわかる。
筆者は、あとがきで「宗教の教科書」といっても、中立、公平、無難ではなく、あくまでも自分が生きてきた時代と個人の体験をもとに書いていると述べる。
宗教を知る、まさに教科書である。

東京で買える仏教書店一覧表

書店	出版社	本願寺出版社	永田文昌堂	法蔵館
① 山喜房仏書林 仏教書専門店 東京都文京区本郷5丁目28-5 TEL. (03) 3811-5361		×	○	○
② 中山書房仏書林 仏教書専門店 東京都文京区湯島2丁目14-4 TEL. (03) 3833-7676		×	○	○
③ ジュンク堂書店新宿店 東京都新宿区3-29-1 三越新宿店内 TEL. (03) 5563-1300		○	×	○
④ 三省堂書店本店 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL. (03) 3233-3312		○	×	○
⑤ 丸善丸の内本店 東京都千代田区丸の内1-1 丸の内OAZO内 TEL. (03) 3273-1213		○	×	×
⑥ 八重洲ブックセンター 東京都中央区八重洲2-5-1 TEL. (03) 3281-1811		○	×	○
⑦ 紀伊国屋書店新宿本店 東京都新宿区新宿3-17-17 TEL. (03) 3354-0131		○	×	○
⑧ ジュンク堂書店池袋店 東京都豊島区南池袋2-15-5 TEL. (03) 5956-6111		○	×	○
⑨ あおい書店川崎駅前 川崎市川崎区駅前本町8番地川崎DICEビル4階 TEL. (044) 233-6518		○	×	×

お寺を訪ねて(17)

川崎駅東口から、川崎市営バス市営埠頭行き又は臨港バスいすゞ自動車行きのバスで約15分、台町バス停で下車し徒歩で約2分。近くには川崎大師がある閑静な住宅街に円光寺はあります。

円光寺は、昭和20年頃に初代住職、石川保正師が東門前に説教所を開設しました。昭和24年11月、現在の地から300メートル程北

に本堂が建てられ、本願寺派寺院としての円光寺が設立されました。昭和26年に初代保正師がご往生されましたが、その3日後に第2代、現住職石川康承師が誕生されましたので、前住職のご葬儀の際に前坊守さんは現住職をお腹の中に抱え、本当に大変だったそうで、「この子はもしかしたら生まれないかもしれない」とまで思ったそうです。

昭和33年には大師公園の建設にともない、現在の地に移転をしました。現在のご住職は昭和49年に住職就任。その間は、当時の組長さんが代務住職を務めておられたそうですが、前坊守さんやご門徒さんが住職のいないお寺を守ってこられましたのでご苦労も多かったようです。

しかし本堂が手狭になってきたため、ご門徒の皆さまからの強い要望があり建て替えることになりました。平成11年に現在の本堂の建設に着手、12年5月に竣工。その間は仮本堂を前住職が説教所を開いたゆかりの地、東門前におきました。この工事にあたっては、ご門徒の厚いご懇念をいただいたそうです。ご住職は「以前からの門徒さんの護持によって、このお寺は成り立ってるんです。ありがたいことです。」とおっしゃっておられました。

円光寺では、5月最後の日曜日に永代経法要、11月最後の日曜日に報恩講法要がお勤まりになっています。皆さまも是非お参りになって下さい。



一神奈川組最東端のお寺一

えん こう じ

円光寺

川崎市川崎区台町4-21

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。



しあわせ少女ゆうかちゃん

業界初の上場企業
関東地区82店舗・全国で114店舗

～お仏壇、お仏具等～
特別価格
大ご奉仕中!!
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	☎0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	☎0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	☎0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	☎0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いびき野3-1	☎0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	☎0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	☎0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	☎0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	☎0120-594-345

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇・お墓
はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿彌陀堂
昭和大修事業
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔室内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)はせがわ仏壇工房明日香工場
(純金箔仏壇)
(株)はせがわ仏壇工房大川工場
(唐木仏壇)

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこう じ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21 石川 康承 ☎044-266-2677
ほうえん じ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10 飯田 琢亮 ☎044-222-3941
こうとく じ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3 林 信順 ☎044-333-3997
しょうらく じ 正楽寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49 佐々木俊博 ☎044-522-1961
こうがん じ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12 宮本 義宣 ☎044-777-6544
ちやうねん じ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416 小林 泰善 ☎044-911-2549
じやうねん じ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203 古市 道仁 ☎044-988-0205
じやうしょう じ 浄照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7 加藤 孝充 ☎044-855-2780
ぜんりゅう じ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町 29-51 斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
ぜんきやう じ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396 平等 勝尊 ☎045-541-7684
きやうかく じ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395 平等 真証 ☎045-531-5050
こうりん じ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9 村石 恵照 ☎045-561-8671
とうぜん じ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29 長谷尾芳雄 ☎045-911-3509
ちやうとく じ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乘 ☎045-911-7351
じゅふく じ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎045-942-3721
さいじやう じ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277 日野 教昭 ☎045-941-3541

じおん じ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原 2-18-1 小泉 敬信 ☎045-934-8648
さいしょう じ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川 1-10-8 藤下 悌乗 ☎045-911-0156
ちやうえん じ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440 (代務)高杉 俊教 ☎045-932-3348
さいがん じ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 4-19-18 藤江 義昭 ☎045-571-4694
ほうこう じ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5 藤田 恭順 ☎045-201-3509
ぜんねん じ 善然寺	〒232-0061 横浜市区大岡 2-26-17 長谷山顕俊 ☎045-741-2351
せんしょう じ 宣正寺	〒232-0063 横浜市区中里 3-20-18 早島 大英 ☎045-731-2679
せいらい じ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895 曾我 求真 ☎045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜 布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田 2-12-19 開田 蓮成 ☎045-341-7455
三ツ境 布教所	〒241-0816 横浜市旭区笹野台 3-9-9 寺田 崇裕 ☎045-364-2266
磯子 布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 25-47 中戸 達雄 ☎045-623-4480
青葉 布教所	〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 567-13 西村 信也 ☎045-961-3737
相模原 布教所	〒229-0016 相模原市当麻 863-30 北條不可思 ☎0427-77-3011

地域内の東京教区寺院

なかみづ じ 妙延寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1 山本 浩真 ☎044-966-5304
にしき じ 覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391 喜代多證宣 ☎045-901-0570

「神奈川組」とは...

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

教区会議員／佐々木俊博	組長／小林 泰善	相談員／藤江 義昭
根本 猛（門徒）	副組長／長谷山顕俊	相談員補佐／古市 道仁
	副組長／早島 大英	

金子みすゞの詩^{うた}

熱心な念仏者だった金子みすゞ。彼女の哀しくて、でもかわいらしく、優しい詩の背景にはお念仏の教えが色濃くにじみ出ています。

『蓮と鶏』

泥のなかから
蓮が咲く。

それをするのは
蓮ぢやない。

卵のなかから
鶏が出る。

それをするのは
鶏ぢやない。

それに私は
気がついた。

それも私の
せいぢやない。

—『金子みすゞ全集』（JULIA出版局）より—

金子みすゞは、一九〇三（明治三六）年、山口県長門市仙崎に生まれた。本名を金子テルといい、二十歳頃（大正十二年）から詩をつくり、雑誌に投稿を始めた。ペンネーム「金子みすゞ」で初めて投稿した詩が『童謡』『婦人倶楽部』『婦人画報』『金の星』『四誌』に一斉に掲載され、当時の童謡詩人たちのあこがれの星となった。しかし、二十六歳の若さで亡くなったため、その作品は散逸していたが、没後五十年余を経た一九八二年五百十二編の遺稿集が発見され、金子みすゞ全集（JULIA出版局）が出版された。



私たちの、煩惱に濁った、哀しい泥の中からは
抜けるような白い蓮の花が咲きます。
卵からは、鶏が生まれます。

みすゞにとつては、
蓮も鶏も自分の力で
生まれてくるとは思えなかったのです。
生命の不思議を見つめたみすゞは、
生命はもつと大きなものに生かされていて、
蓮が咲くし、鶏も 人も生まれてくるのだと
気づいたのです。
だけど、そのことに「私が自分の力で気づいたんだ」というようなおこりはありません。
生きとし生けるものが、
仏さまのお慈悲に生かされている。
と、私たちが気づくことができることすらも
仏さまのお慈悲のおかげさまだと、
みすゞはうたうのです。



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277

勝田山 最乗寺

電話045-941-3541

組報かながわ No.18

■発行日 2005年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 長念寺内